

5. 奈良県十津川村歴史資料調査・ 聖護院文書調査

渡邊 幸奈

1. 概要

文化情報学研究室では、2017年度から奈良県十津川村の村史編さん事業の一環として十津川村伝来の古文書及び歴史資料の調査・整理を実施しており、2022年3月に『十津川村史歴史資料編（近世1）』が刊行された。現在は玉置神社文書、諸家文書を収録した資料編（近世2）の刊行に向けて、関連資料の選定・翻刻・解説やコラムの執筆などが終了している。この十津川村史編さん事業には、本学から東昇（教員）と水谷友紀（共同研究員）、他多数の院生、学生が歴史部会の調査に参加している。

2. 十津川歴史資料調査

本調査は2022年9月1日～4日の4日間、十津川村教育委員会大向翔太学芸員の協力のもと、十津川村歴史民俗資料館において実施した。調査は渡邊幸奈（3回生）が行った。調査内容は主に諸家文書および玉置神社文書の撮影である。諸家文書は既に撮影していたもののうち、松尾家・則本家・大畠家・田本家の文書数点を再撮影した。また、玉置神社文書は箱22および箱33の文書撮影を行った。文書調査以外の活動としては、2日に玉置神社の巡検を行った。

3. 聖護院文書調査

本調査は十津川村史編さん事業の一環として京都市左京区の聖護院門跡において実施した。玉置神社が享保12年（1727）に聖護院門跡の末寺となったことから、聖護院門跡には近世の十津川郷や玉置神社に関係する文書が現存している。

調査日程 2022年7月4日、11月22日

調査参加者 東昇（教員）、滝澤和湖（博士前期課程2回生）、長谷川巴南、正瑞千幸（以上、博士前期課程1回生）、渡邊幸奈（3回生）

7月の調査では『本山修験』に掲載された聖護院文書目録の撮影を行い、11月の調査では前回調査で撮影した聖護院文書目録から十津川郷および玉置神社関係の資料76点を選定し、撮影した。資料には聖護院門跡の入峰に関する文書や玉置神社別当の補任・相続、山林売買・山論などに関係する文書が多く、大峰山や玉置山周辺の絵図も数点含まれている。

編集後記

フィールド集報は、刊行当初より Adobe 社の InDesign を利用して組版作業を手作りでおこなっている。InDesign の取り扱いは、歴史学科文化遺産学コースのうち、考古・建築・地理の実習メニューに含まれ、本書の一部については、そうした実習のなかで学生が組んだものとなっている。

今年度のフィールド調査においても、各地で多くの方からのご理解とご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。歴史や文化遺産にかかる調査は一人では決して成しえないということを、今後も常に意識するように努めたい。(う)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第9号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2023年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
